

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	A-169	20-032 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Racial differences in alcohol and tobacco use in adolescence and mid-adulthood in a community-based sample 地域サンプルにおける青年期および中年期のアルコール・タバコ使用の人種による違い		
執筆者		
Pamplin JR 2nd, Susser ES, Factor-Litvak P, Link BG, Keyes KM.		
掲載誌		
Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2020 Apr;55(4):457-466. DOI:10.1007/s00127-019-01777-9.		
キーワード		PMID
人種、アルコール摂取、喫煙、青年期、中年期		31542795
要 旨		
目的： 非ヒスパニック系白人と黒人との間で喫煙とアルコールの使用は、人種間の健康格差要因である可能性があることが提起されている。本研究は、青年期・中年期の2つの異なる時点でアルコール摂取と喫煙の変動を人種間で評価することを目的とした。		
方法： カリフォルニア州イーストベイエリア在住で、1959年から1966年までに登録されていた妊婦（およびその子孫）を対象としたコホート研究（CHDS）のサブセットデータ559人（男性279人、女性280人）を用いた。アルコール摂取と喫煙の申告は、15～17歳時点と平均年齢50歳時点に実施した自記式調査で収集した。アルコール摂取、喫煙をアウトカムとし、分析には、ロジスティック回帰を用い、黒人に対する白人のオッズ比(OR)を算出した（調整因子：母親の年齢、出生前喫煙、世帯収入、小児期の社会経済的地位、教育）。		
結果： 白人は黒人に比べて、青年期に定期的に飲酒する傾向（OR2.2；95%信頼区間（CI）:1.2,4.0）と酩酊する傾向（OR2.0；95%CI:1.2,3.2）が高かった。白人は中年期も飲酒している可能性が高いままであったが（OR2.3；95%CI:1.6,3.4）、飲酒者の中で暴飲の可能性は低かった（OR0.4；95%CI:0.2,0.8）。中年期において、白人は喫煙者が少なかったが（OR0.4；95%CI:0.3,0.6）、喫煙者のうち1日に1/2箱以上を喫煙する者が多かった（OR3.4;95%CI:1.5,7.8）。		
結論： 黒人は生涯を通じて飲酒率は低いですが、飲酒者の中では中年期に暴飲する可能性が高かった。黒人は中年期の喫煙率が高いが、喫煙頻度は白人よりも少なかった。人種間の不平等の仕組みの再構築において、より広い構造的、そして社会的な要因に焦点を当てること、不平等を理解し改善するために良い働きをする可能性を示唆している。		